

# 「ワークライフバランス

## ～女性が変わる、男性が変わる、会社が変わる～

▽2017年9月7日(木)とかちプラザ視聴覚室にて、札幌大学客員教授で、元FM北海道パーソナリティの中田美知子さんに、ワークライフバランス(仕事と生活の調和)のあり方についてお話しいただきました。

### 「今、なぜ女性活躍？」

日本の将来推計人口(左表)を見ますと、2110年には、日本の総人口は5千万人を下回るとされています。今は4人の労働者で1人を支えている状態ですが、将来的には、1人が1人を支えることになり、労働者人口の減少をどうするのか大きな課題になります。課題解決の方法として挙げられるものとして、高齢者の社会参画や海外からの移民受入れ、AI(人工知能)の普及などがあり、その1つに、女性活躍の推進があります。

	2010年	2060年	2110年
総人口	12,806万人	8,674万人	4,286万人
老年人口	2,948万人	3,464万人	1,770万人
生産年齢人口 (15歳～64歳)	8,174万人	4,418万人	2,126万人
年少人口 (～14歳)	1,684万人	791万人	391万人

▲日本の将来推計人口(死亡中位 合計特殊出生率1.35(平成24年))  
(国立社会保障・人口問題研究所より)

総務省の労働力調査から、非労働力人口の女性のうち、300万人以上が就労を希望していることがわかりました。日本は育児や出産期に仕事を辞める女性が多く、スウェーデンなどと比べると、労働力率の男女格差があります。



講師  
なかたみちこ  
中田美知子さん

労働力人口の低下に歯止めをかけるためにも、こういった女性の就業促進が重要となります。

### 「女性問題は男性問題へ」

大介護時代の到来によって、いずれ育児や出産で休む女性より、介護で休む男性の方が多くなるといわれています。今も介護男性は増えていますが、周りに迷惑をかけたくない、同情されたくない、出世に影響などの理由から、会社に言わずにひっそりと介護をしている現状があります。これからは、時間に制約のある人たちの集合体でいかにビジネスをやっていくか、ということを考えていけばいいかもしれません。

### 「これからの働き方は？」

長時間労働はもはや、「勝つための手段」ではなく、「負けている原因」といわれています。現在の市場は、均一なものに飽きています。高度経済成長期のように、同じ条件の人を揃えて、一生懸命同じものを作

り続けてもなかなか売れません。なるべく違う条件の人を揃えていく方がいい。時間に制約がある中で、長時間労働を是とするのではなく、会社全体で短時間で成果を出す癖を徹底的にトレーニングしていくことが必要です。

### 「特效薬は、自分たちで作る」

ワークライフバランスに、万能薬はありません。それぞれの会社の特效薬は、自分たちで見つけて作っていかなければいけません。会社の中を見つめて、現実合っていない古い習慣はないか洗い出し、どうやったら時間を作れるか、それをどう自分たちの生活に反映させていくか、ということを見つけていくと、男性も女性もいきいきと働く職場ができるのではないかと思います。

### セミナーに参加して

ワークライフバランスは、生活と仕事のバランスを良くすることであり、バランスを良くすれば生活と仕事の質がさらに向上し、相乗効果が生まれるとお話にご共感し、感銘を受けました。今回の講演を聞いて、新しい視点を得ることができました。

